

RV-200 Web エディタ

取扱説明書 / セットアップガイド

非公式ツール（Roland/BOSS とは無関係）

このツールは、専用エディタが提供されていない **BOSS RV-200 リバーブ** を、パソコンの画面から MIDI 経由で操作・管理するための **非公式の Web アプリ**です。インストール不要・ブラウザだけで動作し、設定はお使いのブラウザ内にのみ保存されます（外部送信なし）。

1. これは何ができるの？

- ・ **12種類のアлゴリズム（リバーブの種類）**を画面から切り替え
- ・ **6つのパラメータをノブで操作**（TIME / PRE-DELAY / E.LEVEL / PARAM / LOW / HIGH）
- ・ 音色を「シーン」として保存・呼び出し・一覧表示（パソコン側のプリセット集）
- ・ **JSON書き出し/読み込み**で、設定の共有・バックアップ・別PCへの引き継ぎ
- ・ **ライブミラー**：本体のノブを回すと画面にも反映

2. 必要なもの（動作環境）

項目	内容
ブラウザ	Google Chrome / Microsoft Edge （Web MIDI対応）。※ Safari・Firefox は非対応
本体	BOSS RV-200
MIDIインターフェース	USB-MIDIインターフェース（Mac/PCと本体をつなぐ）
ケーブル	TRS/MIDI変換ケーブル（BMIDI系）。RV-200のMIDIは標準DINでなく TRS（ミニ）

全体の流れ：①本体を準備（MIDI設定+テンプレ作成）→②ケーブルで接続→③ブラウザでエディタを開いて使う。最初の①だけ一度きりの作業です。

3. STEP1 本体の準備（最初の一度だけ）

3-1. MIDI設定（本体メニュー）

メニューの入り方：[DENSITY]+[MEMORY] を同時押し → [TIME]ノブ で項目選択・押して決定・回して変更 → もう一度 [DENSITY]+[MEMORY] で終了。

各パラメータの **CC番号は任意に決められます**（1～31 または 64～95 の範囲で何番でも可。32～63のみ不可）。下表は**迷ったときのオススメ設定**です。本体とエディタで同じ番号にすれば動きます。

表示	意味	オススメ設定
RCh	MIDI受信チャンネル	7
CCi	CC受信（操作を受ける）	on
Pin	PC受信（アルゴリズム呼出に必須）	on
CCo / tCh	CC送信／送信Ch（ライブミラー用・任意）	on / 7
TNC	TIME の CC番号	70
PdC	PRE-DELAY の CC番号	71
ELC	E.LEVEL の CC番号	72
PRC	PARAM の CC番号	73
LoC	LOW の CC番号	74
hiC	HIGH の CC番号	75
EFC	EFFECT ON/OFF の CC番号	80

数値はエディタ側でも変更できます：エディタ画面の「MIDI/CC設定」でいつでも書き換え可能です（初期値は上表のオススメ設定と同じ）。本体で別の番号にした場合は、エディタ側を同じ番号に合わせれば動作します。大切なのは「本体とエディタで番号を一致させる」ことだけで、番号そのものは好きに決めて構いません。

3-2. 12個のテンプレを作る（アルゴリズム切替の土台）

RV-200は MIDI で「リバーブの種類（MODE）」を直接変えられません。そこで **12種類を本体メモリに保存し、エディタから呼び出して切り替えます**。

- 1 本体の **MODEノブ**を目的の種類に回し、音を作る（TIMEなども設定）
- 2 **[MEMORY]**を長押し → 画面に「**Wrt**」
- 3 **[TIME]**ノブで保存先を選ぶ（100番以降は小数点表示。例 **.16 = メモリ116**）
- 4 **[MEMORY]**を長押し → 保存完了。次の種類へ繰り返し

保存先はEXTENT設定に関係なく1～127すべて選べます。順番は下表どおりに。

種類	保存先メモリ	PC番号	種類	保存先メモリ	PC番号
ROOM	116 (.16)	117	SLOWVERB	122 (.22)	123
HALL	117 (.17)	118	MODULATE	123 (.23)	124

PLATE	118 (.18)	119	+DELAY	124 (.24)	125
SPRING	119 (.19)	120	LO-FI	125 (.25)	126
SHIMMER	120 (.20)	121	GATE	126 (.26)	127
ARPVERB	121 (.21)	122	REVERSE	127 (.27)	128

4. STEP2 接続

操作（PC→本体） インターフェースの MIDI OUT → RV-200 の MIDI IN
ライブミラー（本体 →PC） RV-200 の MIDI OUT → インターフェースの MIDI IN ※任意

操作だけなら「OUT→IN」の片方向でOK。本体ノブを画面に反映させたい場合だけ、戻り（OUT→IN）も配線します。

5. STEP3 エディタを開いて接続

- 1 `RV-200_Editor.html` を **Chrome / Edge** で開く（公開URLがあればそれを開く）
- 2 MIDIアクセスの許可ダイアログが出たら「許可」
- 3 右上の **OUT** で接続したインターフェースを選択。**Ch** は **7**
- 4 （ライブミラーを使うなら）**IN** も選択 → 表示が「MIRROR: on」になる

6. 使い方

アルゴリズム

上部の12ボタンで種類を選択。押すと該当テンプレを呼び出し、下のPARAMの意味も自動で切り替わります。

パラメータ（ノブ）

ノブを **上下ドラッグ／マウスホイール** で操作。**Shift** で微調整、**ダブルクリック** で中央(64)。動かすとリアルタイムで本体に反映されます。

EFFECT・フットスイッチ

EFFECT の **ON/OFF**、CTL1/CTL2/ON-OFF/MEMORY のスイッチ操作を送れます。

シーン（パソコン側プリセット）

操作	内容
+現在を保存	今の音を名前付きで保存（一覧に追加）
呼出	そのシーンを本体へ送って再現（PC+6パラメータ）

上書 / ▲▼ / × / ↓	上書き保存／並べ替え／削除／このシーンだけ書き出し
アルゴリズム表示	各シーンに種類（ROOM／HALL等）を バッジ表示 。一覧（Preset Map）でも「Algorithm」列で確認できる
PC（任意）	送るProgram番号を任意指定（空欄＝種類の既定）。既存プリセットのメモリ番号に合わせたい時に使用
DENS / メモ	DENSITY値（0～5）の控え・自由メモ

Preset Map（マッピング一覧）

保存した全シーンの設定を一覧表で確認。行クリックで呼び出せます。

書き出し / 取り込み

全体JSON書き出しで共有・バックアップ。**取り込み(マージ)**で他PCのシーンを追加。ブラウザにも自動保存され、次回そのまま続けられます。

本体メモリへ書き込み

「①現在の音を本体へ送る」を押し、画面の手順に従って本体で **WRt** 保存します。（MIDIには指定メモリへ直接保存する命令が無いいため半自動です）

7. できること・できないこと

できる	できない（制約）
種類切替（テンプレ呼出）／6パラメータ操作／EFFECT ON/OFF／シーン保存・共有／ライブミラー	MODEをCCで直接変更 （テンプレ呼出で対応）／ DENSITYのMIDI操作 （本体のみ・メモで管理）／ 本体の現在値を読み込む （パッチダンプ非対応）／ エディタから本体へプリセットを直接保存（書き込み） （指定メモリへ保存するMIDI命令が無い。音は送れるが、保存操作は本体でWRITE＝半自動）

8. 困ったとき

症状	確認
反応しない	OUTポート選択／Ch=7／本体 RCh=7・CCi=on・Pin=on／OUT→IN配線
アルゴリズムで音が変わらない	テンプレ（メモリ116～127）を保存したか／Pin=on
ノブで音が変わらない	本体の各CC番号（TNC等）とエディタのCC設定が一致しているか
ライブミラーしない	INポート選択／本体 CCo=on・tCh=7／本体OUT→I/F IN の戻り配線

免責・商標：本ツールは非公式であり、Roland Corporation／BOSS とは一切関係ありません（提携・承認なし）。「BOSS」「Roland」「RV-200」は各社の商標です。本ツールの使用は自己責任で行ってください。製作者は機材・データへのいかなる損害についても責任を負いません。設定データはブラウザ内（localStorage）にのみ保存され、外部送信されません。

RV-200 Web エディタ 取扱説明書 — 2026年版